

令和3年度 第3回学校評議員会

2月9日（水）10時00分より、評議員3名出席のもと、第3回学校評議員会を開催した。

ご出席いただいた学校評議員は、次の方々である。

- ・北條 俊介 様（本校 PTA 会長）
- ・戸倉 聡 様（医療法人仁友会日之出歯科真駒内診療所 会長）
- ・高橋 和明 様（札幌大学 教授）



はじめに校長より第2回の学校評議員会以降の本校の学校経営の状況について説明を行い、その後、各学部から後期の取組について説明を行った。各学部からは行事への取組と GIGA スクール構想に対応した ICT を活用した取組を含めて報告を行った。その後、副校長より「令和3年度の学校評価」についての報告と校長より「令和4年度学校経営方針（素案）」について説明を行った。

委員の皆様からは、ご説明した教育活動の取組について、次のようなご意見をいただいた。

- 新型コロナウイルス感染症が広まってまる2年になった。次から次へ変異株が出てくるなどいろいろあるが、だいたい今後の見通しがついてきている状況になってきているのかなと思っている。これからコロナとの断絶はできないと考えられ、今後、新たな感染症も出てくる可能性も否定はできない。その中で、年間を通した流れというのが見えてきているのではないか。この時期になると必ず感染者が増える、例えば年末年始を過ぎたら必ず増えるだろうと想定されていたら、現実にもそのとおりになった。とすると、教育活動に関しても年間行事予定の立案などは作戦が必要だと考える。冬場の北海道は寒いし、乾燥するし、いろいろな感染症から避けられない時期となる。ということからも冬場は大きな行事や対面でやりたい行事は避けるなど、やりたい行事を感染症の増加時期などを踏まえて計画を立てていく必要があるのではないかと考える。

また、研修や話し合い、授業なども含めて、オンラインでの教育的な効果についても対面で実施するのと比べてどうなのかということも踏まえて検証していく必要があると考える。オンラインの研修会などで講師を務めたときなど、対面でのときに比べてやりとりが希薄になっているなど感じることもあり、オンラインなどで実施する際の「効果的なやり方」について考えていかなければならないと思う。

- ICT の取組、オンラインでの取組に関心を持って聞かせていただいた。どんな取組にも光と影になる部分があると思っている。しかしながら、肢体不自由の子供たちにおいては、移動の困難さということが一番問題になるので、コロナ禍でのオンラインの活用は、その代替策としてもとても重要な取組になっている。ある肢体不自由特別支援学校を訪問した際、オンラインで生徒たちが行っていたハンドアーチェリー交流は大変盛り上がっていた。これは、肢体不自由養護学校体育大会のオンライン実施とともに肢体不自由教育の中で財産にしていかなければならないと感じたところである。しかし、一方で多くの学校を訪問し、授業を見させていただいた中で特に ICT の活用の仕方では気になったこと、感じたことがあった。

すべての学校でタブレット端末が整備され、授業の中で存分に活用していくことについては、その教育効果もあると思うが、やはり授業での「ねらい」や「効果」を考えた活用が大事になってくると考える。ある体育の授業の中で、MT の先生が準備体操の VTR を生徒に見せて体操を行っている授業が

あった。何よりもそこに手本を示すことができる MT の先生がいるのに、VTR を見せて行っていたことについて思うところがあった。教師は子供たちにとって最大の環境であり、教材である。この場面でこの教材を使うのがいいのかどうかという検証を真駒内養護学校の先生方には期待とともに是非ともお願いしたい。

- コロナのオミクロン株による感染拡大によって、デイサービスを不安で休まれる利用者様が多くなった。施設を運営する中で厳しい状況が続いていることもあり、札幌市で認められているオンラインでの療育についても考えるようになってきている。今まではオンラインでの療育についてはどうなんだろうと懐疑的な見方があり実施はしてこなかったが、今回、利用者様と Zoom で療育を実施してみた。ところが職員も慣れてないこともあり、はじめは非常に難しさがみられた。それでもお子さんがお休みのときに Zoom でつないで、お母さんの協力を得ながらテレビ画面越しにデイサービスに来ている子供たちと活動したときには笑顔を見せたりして一緒に活動することができた。オンラインでつないだときには、実際にその場にはいないが、いたような気分になってくれたのかなと感じたことがあった。やり方次第なのかなと私も思う。

ICT の取組については、先生方も慣れない中で工夫ある取組を行っていただいている、保護者としてありがたく思っている。しかし、一方で先生方からはコロナの感染拡大によってオンラインで行っているということを申し訳ないと思っていると聞くこともあったので、もっと前向きにとらえて、保護者へ教育的な「ねらい」や「効果」を伝えていただけたら、保護者からの理解や賛同も得られやすいと思う。

（最後に校長より）

本日はご多用の中、長時間にわたる御評議をいただき感謝申し上げます。来年度もウィズコロナへの対応は行っていかなければならないだろうと想定して、先生方と検討を重ねながら動いてきている。これまでのコロナ対応の取組の中で、実践し確かめてきたものを本校のガイドラインとして作成し、それをもとにご意見いただいたコロナの感染者が増加しやすい時期を踏まえた年間スケジュールを考え、見直しを持って来年度も進めていきたいと考えている。

ICT の活用（GIGA スクール構想）については、国としても新型コロナウィルス感染症が出てくる以前から実施しようと計画していたことであり、新型コロナウィルスの感染拡大によって加速して整備された。肢体不自由の子供たちは社会で生活していく上で、この道具を活用していくことは欠かせないものとなっていくと思う。しかし、生活を豊かにしていく上で、一人一人に応じた道具の使い方を身につけていかなければ豊かな生活には結びついていかないと考える。子供たちの生きる力を育ていくために ICT を道具として活用していくという方向で、学校で使用する際には、授業のねらいに応じて使用していきながら先生方と一緒に進めていきたいと考えている。

次年度は、令和 4 年度学校経営方針（素案）にも示してある「本校の育てたい力（生きる力の 5 要素）」を意識した授業の取組を小中高の学びの連続性や発展性がどのように繋がるのか、「学びのグランドデザイン」として図式化（見える化）するなどの取組を行っていききたい。これは、先生方が互いに議論して作成し、共通理解のもと 12 年間を見通した指導を意識できるものとしていききたいと考えている。できあがった際には、「本校の教育」を説明する資料として校内に掲示し、地域の皆様方にもご覧になっていたいただけたらと思っている。

（文責：教頭 渡 邊 憲 幸）